

放射能が降ってくる

「ビキニ事件」と科学者西脇安



* 第五福竜丸を調査する西脇安 (写真提供: 西脇安)

2015年9月12日(土)～9月30日(水)

9時30分～16時30分(入館は16時まで)

* 休館日: 月曜日・祝日の翌日 (9月21日(月・祝)は開館、9月22日(火)、9月24日(木)は休館)

立命館大学国際平和ミュージアム 2階 ミニ企画展示室

大人 500円 中・高校生 300円(250円) 小学生 200円(150円)

※特別展「世界報道写真展 2015」の期間中は、大人の見学資料費が500円となります(団体料金適用はありません)。

* 常設展示および特別展もご覧いただけます。

* () 内は20名以上の団体料金です。

* 先に地階受付で見学資料費をお支払いください。

* 立命館で学ぶ人・働く人は無料です。

主催: 立命館大学生存学研究センター

共催: 立命館大学国際平和ミュージアム、立命館大学人間科学研究所・文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究(基礎研究チーム)」

協力: 東京工業大学博物館、東京都立第五福竜丸展示館

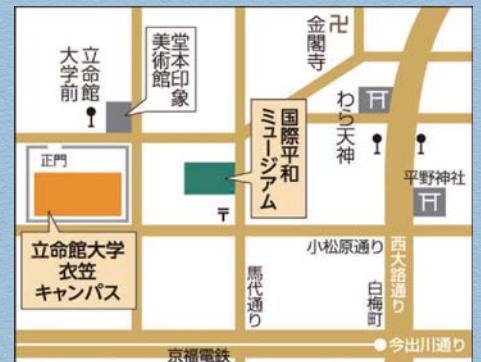
企画: 「放射能が降ってくるービキニ事件と科学者西脇安」実行委員会

問合せ: 立命館大学生存学研究センター TEL: 075-465-8475 FAX: 075-465-8245
<http://www.ritsumei-arsvi.org/>

交通案内

- ・ JR・近鉄 京都駅より……市バス 50 JRバス
- ・ JR・地下鉄 二条駅より……市バス 15・55
- ・ 地下鉄 北大路駅より……市バス 204・205
- ・ 京阪電車 三條駅より……市バス 15・59
- ・ 阪急電車 烏丸駅より……市バス 51・55
- ・ 阪急電車 西院駅より……市バス 205
- ・ 地下鉄 西大路御池駅より……市バス 205
- ・ JR円町駅より……市バス 15・204・205

■市バス 15・50・51・59にて「立命館大学前」下車/徒歩5分 ■市バス 204・205にて「わら天神前」下車/徒歩10分



※お車でのご来館はご遠慮下さい。

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

<http://www.ritsumei.jp/>



立命館大学
生存学研究センター



立命館大学
国際平和ミュージアム

Kyoto Museum for World Peace,
Ritsumeikan University

放射能が降ってくる

—ビキニ事件と科学者西脇安

2011年、東京電力福島第一原子力発電所の事故によって放射能による環境汚染問題が起きました。しかし環境放射能汚染問題は 60 年近く前におきた第五福竜丸の被災事件でもありました。本展示では、第五福竜丸の被災をきっかけに起きた、人々の運動と科学者の活動を振り返ります。この時、人々の運動と科学者の活動は交錯し、反響しあって、核兵器が登場した時代の新しい地平を切り開きました。そのなかで西脇安は両者に接点を持って活動し、その後起こる科学者運動の契機を作りました。

2011年の原発事故を受け、時を経て社会のなかで見えにくくなっていった核をめぐる運動は一気に表舞台に飛び出しました。本展示では、核をめぐる運動の起点となった重要な出来事を改めて振り返り、3.11以後を生きる私たちの手がかりを探りたいと考えています。



マグロはえ縄漁船第五福竜丸模型
大石又七制作、1985年

第五福竜丸

1954年、静岡県焼津港を母港とするマグロ延縄漁船第五福竜丸(140トン)は、アメリカのビキニ環礁での水爆実験で被災。アメリカは水爆の機密が漏れることを恐れて福竜丸を海に沈めるよう日本政府に働きかけましたが、文部省が買上げました。福竜丸は、その後水産大学の練習船を経て廃船となり、ゴミ処分場に放置されましたが、人々や科学者による保存運動によって、現在は第五福竜丸展示館で保存・展示されています。本展示では、第五福竜丸の模型(第五福竜丸展示館所蔵)を展示します。

ビキニ事件

1954年、アメリカがマーシャル諸島ビキニ環礁で実施した水爆実験で日本の漁船第五福竜丸が被災しました。それが発端となり、水爆実験による広域における環境の放射能汚染が発覚し、大きな社会問題となりました。福竜丸はビキニ事件の象徴的存在となりますが、他にも多くの漁船や実験が行われた現地住民も被曝しました。本展示ではその影響をパネルで振り返ります。



ビキニ水爆ブラボーのキノコ雲



第五福竜丸の放射能を調査する西脇安

西脇安 (にしわきやすし 1917-2011)

1954年の第五福竜丸被災では現地に駆けつけ放射線測定を行い、その後も放射能雨の測定を行うなど、日本の放射線生物物理学の草分けとして活動しました。西脇は強い使命感からヨーロッパを巡り、福竜丸被災の実情を海外へ伝えました。この努力が核兵器使用の問題を考える科学者運動へと結実しました。1950年代は、原子力という技術を軍事利用ではなく平和利用にこそ使うべきだとされた時代でもありました。事件の後、西脇は国内外の原子力政策に関わっていきます。2011年、福島原発事故の半月後に他界しました。



ガイガー計数管



死の灰「純品」



検査試料「マグロのウロコ」

(第五福竜丸展示館所蔵)